



TAKU GALLERY
Collection
アート

ここが“創造の出発点” アートのまち、多久



プロのアーティストによって彩られたアートが、行き交う人の心までも踊らせる—多久市のまちづくり。インスピレーションを受けながら、景観をお楽しみください。

■ 多久市ウォールアートプロジェクト

多久市の中心市街地でまちなかに明るさにぎわいをつくらうと、平成27年（2015年）に始動したアートプロジェクトです。約4年の活動で30作品ほどの大きなウォールアートが、多久のまちなかに創られてきました。

誰でも・いつでも・自由に・無料で観覧できる「パブリックアート」であることも後押しし、数多くの人がカメラやスマートフォンを片手に来訪。コロナ禍の一時中断を経て、令和5年（2023年）に待望の再始動を果たしました。令和8年（2026年）には100作品が多久のまちなかを彩ることをめざし、全国や世界で活躍するアーティストに描いていただいています。

多久市ウォールアートプロジェクト

プロジェクトマネージャー おおしま ひとみ （左から）大島 仁美さん・富永 邦久さん・富永 ボンドさん 【一般社団法人たぐ21】	委員長 とみながくにひさ 富永 邦久さん 【富亀和旅館】	副委員長 とみなが 富永 ボンドさん 【画家・ボンドグラフィックス代表】
---	---------------------------------------	---



Real Voice
このプロジェクトは全国で活躍するアーティスト、そして地域のみなさんからたくさんの協力を得ながら進めています。みんなで考えて形にすることを大切にまち全体で取り組むので、多様な意見を伺えるのも楽しいんです。持続的に活動し、子どもから大人まで「ようこそ多久市へ!」と誇りを持って言えるまちづくりの一助となるよう、これからも頑張ります。

池田学 が描く緻密で豊かな自然界

多久市で生まれ育ち、現在はアメリカ合衆国ウィスコンシン州マディソンで作品を制作する池田学さん。丸ペンを使用した独自の細密技法で描く感性豊かで緻密な作品の数々は、多くのファンを魅了し続けています。

Message from
MANABU IKEDA

“ふるさと”多久へ

幼い頃はずっと自然の中で遊んでいました。特に夏はほぼ毎日、朝は雑木林の中でカブトムシをとり、日中は今出川で魚釣り。夜はまたカブトムシやホタルをとるといった具合です。夏以外も、学校帰りに昆虫を捕まえていた記憶があります。

東京や海外から多久市に帰って来ると、特に天山周辺の山や森の姿に毎回心を打たれます。モコモコとした入道雲みたいな表情の森から絵のインスピレーションを受けることもしばしば。ほかにも子どもの頃の思い出が詰まっている場所はお気に入り、今出川もその一つです。

子どもの頃と変わらない風景がたくさん残されているところが多久の長所だと思います。これまで天山周辺の景色をモチーフにした「記憶」や、佐賀の山々の表情からインスピレーションを得た「Green expressions」など、ふるさとを原点にした作品を描いてきました。いつか子どもの頃に遊んでいた多久の森をモチーフに、いくつか描いてみたいです。

© IKEDA Manabu
Coursry of Mizuma Art Gallery



2019年【Green expressions】



2016年【キリン】多久市所蔵



いけだ まなぶ
池田学さん

昭和48年生まれ。南多久町大字下多久泉町出身。平成10年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。平成12年同大学院修士課程修了。

平成23年より文化庁芸術家在外研修員としてカナダ・バンクーバへ。平成25年からはアメリカ合衆国ウィスコンシン州マディソンのチェゼン美術館の招聘を受けて滞在制作を行っている。



2002年【記憶】